

## トルコ 晩生のマンダリンは10～15%の増加を見込む

FreshPlaza 2023年12月15日

トルコの青果物輸出業者エレン社の販売部長であるコスグン・エレン氏は、トルコの柑橘類のシーズンが本格化しており、これまでのところ量と品質の両方が予想の範囲内であると述べている(以下「」は同氏の発言)。

「トルコ産柑橘類の輸出は、8月頃に始まり翌年の5月頃に終わる。現在、シーズンの半ばであり、シーズンの後半に向かっている。5月までの長期貯蔵計画に基づき、果実の貯蔵を開始した。収穫はまだ続いているが、今後の雨天に備えて貯蔵も行っている。今シーズンは大きな問題はなく、量も質も今のところ問題ない。」

通常、クリスマス休暇の直前に需要が急増するが、同氏によると現在がまさにその最盛期である。「ラマ種の需要はますますで、驚くほど良い訳ではないが予想の範囲内であり、計画どおりに出荷している。シーズン半ばのマンダリンの需要はかなり良好であった。1か月以上前から出荷能力一杯で、どうにかすべてを出荷することができたことに満足している。」

「晩生のマンダリンについては、1～2週間以内に出荷を開始する予定である。販売量に関しては、昨シーズンに比べて10～15%の増加を見込んでおり、状況は良好なようだ。我々は大いに期待しており、現在、小売向けの出荷計画の最終版を取りまとめているところである。今のところ品質に問題はないようだ。」

「弊社の最も重要な市場は、EU、ロシア、北米、及び極東の一部の国である。クリスマスは弊社の繁忙期である。特に、それに至るまでの数週間、つまり今が一番忙しい。顧客の注文は数週間前から受けており、11月の最終週から12月の第2週までにできるだけ多く出荷するようにしている。クリスマスから年末年始、及びその直前の数日間は需要がほとんどないが、それ以前の急増で月別の出荷量はカバーされる。」

今年は収穫量が多かったため、競合する他社も含めて価格が下がったとエレン氏は説明する。「今年は生産量が多いため、価格は昨シーズンより少し安くなっている。しかし、それはスペインやギリシャにも当てはまり、皆同じである。柑橘類には通常表年と裏年があり、今年は表年である。国内で食べきれないほどの量があるので、これは間違いなく輸出価格に反映される。価格がどれだけ下がったかをパーセンテージで示すのは難しいが、昨シーズンよりは間違いなく良い。」

出荷シーズンはまだ終わっておらず、同社にはシーズン終了まで追い求める目標と期待が残っている。「弊社が追い抜くべき最高の競争相手は弊社自身であると考えている。今年は、光学系とソフトウェアによる選別機と自動充填機も導入した。現在の稼働率は70～80%であるが、来シーズンはこれらのシステムを100%稼働させることを目指している。弊社ではあらゆる機会に新しいテクノロジーを導入しようとしており、これら2つのシステムにより弊社の第4次産業革命の目標に近づくだらう。」

エレン氏は、「労働事情が年々悪化する中、操業に必要な適切な労働力が見つからなくても、常に顧客対応を遂行できる体制を整える必要がある。今年は、その点で非常に良い進歩を遂げた。品質をより適切に管理できるようになり、従来の労働力に加えて自動化も活用するので来年は出荷能力が2倍になると予想している」と締めくくった。

執筆者: ニック・ピーターズ